

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3770700098
法人名	株式会社 メディカル・ケアサービス
事業所名	グループホームミモザ園
所在地	香川県東かがわ市白鳥1754番地1 (電話)0879-25-6100

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価決定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 15年11月1日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	19人 常勤14人, 非常勤5人, 常勤換算19.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 平屋建て
------	--------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	4,740円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	22名	男性	4名	女性	18名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	10名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田病院、角歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームでは、玄関を入ると共有空間のホールを中心に、3ユニットが放射状に配置され、3ユニットの利用者がお互いに交流しあい、和気あいの和やかな雰囲気うかがえる。</p> <p>基本理念の「みんな一緒に、育む幸せ」を職員が理解し、当ホームでは利用者が混乱することなく普通に生活が送れるよう、心身の痛みを緩和し、心を癒すことを何よりも優先して支援している。また、利用者の健康管理は、協力医療機関との連携が常に取られ、利用者や家族からも安心感がうかがえる。</p> <p>地域との連携を重視し、積極的に自治会にも加入して、地域からの理解を得ており、地域に密着した事業所を目指して努力している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>家庭的な雰囲気や地域密着の工夫についての改善点から、理念の見直しと職員に再確認するとともに、広報紙を充実させ、毎月家庭への配布や地域へ配布している。また、自治会へ加入し地域の行事に参加する等、地域のとの連携、理解、交流に努力の成果がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員がそれぞれのユニットで反省と意見を出し合い、自己評価に取り組んでいる。自己評価によって、問題意識が深まり、今後の自覚と毎日のケアに反省と改善がうかがえ、チームケアの重要性の成果がみられる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、利用者代表、家族、住民代表、地域包括支援センター、グループホーム代表者、グループホーム管理者等のメンバーで構成されている。討議内容は、ホームでの利用者状況、サービスの状況、評価、要望、助言、その他について討議し、その結果は毎月のユニット会や毎日の申し送り職員へ周知する等、質のよいサービスに取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開設以来5年になるが苦情箱への投函はなく、意見、苦情、不安は、家族の訪問時に、懇談の中で伺っている。また、全職員が日々気配りをして、気楽に発言できるよう工夫と努力がうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会に加入し、交流会など地域の行事に参加すると共に、ホームの行事にも参加してもらおうなど、地域との連携と努力がうかがえる。さらなる活躍を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、家族が安心してサービスが受けられるケアを目指し、明るく、笑顔で清潔な自立支援とホームの独自理念に向け、努力している姿勢がうかがえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員個々が理念を理解しているが、更に実践面や応用面において少し幅広く活用に活かしていくことが望まれる。	○	今後は理念を具体化して毎日のケアに活かしていくとともに、ユニットごとの会議で意識づけを行い、高いところに到達点を設ける等、質の向上に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に地域の太鼓や日舞、保育所の子供たちが訪問しているが、ホーム側から出向いての地域での交流会は少ない。	○	ホームに来ていただくだけでなく、利用者もできるだけ地域へ出向き、交流できるよう、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価実施前後には意識づけがあるが、継続的な改善への取り組みに活かす工夫が十分ではない。	○	自己評価した項目、外部評価の項目をもとに、それぞれのユニット会で検討し、サービスの質の向上に努めていくことに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間6回実施しているが、評価に対しての報告はトップダウンの状態である。	○	自己評価、外部評価の結果を、まず職員同士で検討し、具体的な改善へ向けての提案等を運営推進会議で検討する等、地域の方々にも一緒に協力していただくよう努めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が月2回来訪し、事業所の考えや運営、現場の状況についてを話し合い、運営の実施共有に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話、毎月の広報誌で詳しく報告している。利用者の活動が詳細に伝えられ、金銭面も記載しており、家族等はよく理解されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族との懇談の場を設け、家族から意見を伺い、情報の交換に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットの利用者が行動を共にする機会が多く、運営者の方針で、全職員がユニットを超えて利用者に対応するチームプレー方式をとっているため、ユニットごとの職員異動は多い。しかし、全ユニットの利用者と馴染みの関係ができていますので異動によるダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加する機会が少ない。また、勉強会や研修会などが月1回実施されているが、日々の職務の中でテクニック、ケアなどの知識を高揚させ指導に見直しが望まれる。	○	毎月1回、同じ系列のグループでの学習会は実施されているが、外部の認知症の研修会や見学会にも参加するなど、職員の質向上のための取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ間のネットワークや勉強会はあり、近くの事業所とは、意見交換が行われている。今後は、他の事業者や同業者の交流会への参加が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスが受けられるよう、相談の時点から利用に至るまで、利用者の視点に立って柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意思を大切に、相手の気持ちを汲み、常に理念の「一緒に育む幸せ」を念頭において、共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は全ての利用者に、常に声かけとコミュニケーションを図り、想いを汲むよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、話し合っている。3か月ごとの見直しや、状態の悪化の場合は早い機会でのケアプラン修正など、その都度、本人、家族を交えて検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、職員会議後に本人をよく知る関係者の意見や、アイデアを出し合い検討し、その結果を基に介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の本人、家族の状況、要望に向き合い、毎日の生活が楽しく暮らせるよう、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関や、かかりつけの医師に受診できるよう支援している。受診の結果や経過を記録簿に記載し、経過が分かるよう書面を作成し、家族への報告を確実にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は、指針を作成し、家族、本人への説明を行い、意向の把握に努めている。協力医療機関が近くにあり、状況に合わせてその都度話し合い、体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて職員へ周知徹底し、記録の管理、取り扱い方法、保管場所を決めて対応している。また、利用者の意思を大切に、相手の気持ちを汲み、常に声かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活パターンから一人ひとりのペースに合わせた関わりに努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個性にあった範囲で、できる利用者は調理、盛りつけ、後片づけを行っている。職員と利用者のチームプレーが、昼食準備や後片づけからうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴の希望者は現段階ではおらず、今は月曜日から土曜日で週2～3回の方がほとんどで、入浴を拒否される方には、毎回声かけし入るように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりができる役割を把握して、楽しくできるように工夫している。また、喜びや張り合いになることを利用者の生活の中から把握するよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に対して職員が付き添い、出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると下り坂で、ホームの周りは大きな池があり、リスクが高く、以前にも事故に結びつく危険事例があったため、止む得ず施錠している。ホームの立地環境から漫然と施錠するのではなく、鍵をかけない時間を設ける等の工夫が望まれる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルのもと、連絡組織、防火訓練を年2回実施している。また、万が一災害が起こったときには、適切な判断ができる指導が徹底されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の栄養士がバランスのとれた献立表を作成している。利用者の状態に合わせて調理し、職員が連携して刻み食、ミキサー食など嚥下状態を配慮している。また、食材摂取の把握は個別の支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は清潔で、空調設備も20度くらいに調整している。ライトやテレビの音量も低くし、心地よい工夫がうかがえる。長い廊下にはソファや椅子が置かれ、利用者が一人になれる空間がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後も家庭で使い慣れた、使いやすい物、気に入っている物を自由に持ち込み、居室はバラエティーに富み、それぞれの特徴がうかがえる。		